

会議名	令和4年度 清水町都市計画審議会(第2回)		
日時	令和5(2023)/3/1(木) 14:00~14:40	会場	清水町役場 2階 庁議室
出席者	都市計画審議会条例 第3条1項 学識経験者 星野啓二 都市計画審議会条例 第3条1項 学識経験者 谷口眞弓 都市計画審議会条例 第3条1項 公募 澤山あずさ 都市計画審議会条例 第3条1項 議員 中河つる子 都市計画審議会条例 第3条2項 町職員 鈴木聡 事務局(建設課) 課長 山田寿彦、課長補佐 小笠原国雄、住宅都市係長 世良田航、 主事補 有田芯 コンサル 清水克範、鎌田諒也 欠席者) 都市計画審議会条例 第3条1項 学識経験者 伊藤一則 都市計画審議会条例 第3条1項 学識経験者 秋島由貴		
発言者	発言要旨		
	1.開会 2.会長あいさつ (伊藤一則会長が体調不良で欠席のため、職務代理者の星野氏が務めた) 3.議件 (1) 清水町都市計画マスタープランアンケート結果について (建設課 小笠原より説明) (2) 清水町都市計画マスタープラン主要課題について (建設課 小笠原より説明) (1)(2)ともに質疑なし (3)その他 ・清水町都市計画マスタープラン策定スケジュールについて (建設課 小笠原より説明) (以下、意見または質疑応答) 小笠原 ・コンサルタントの方から、外部からみた清水町についてなど、清水町の都市マスについてアドバイスがあればお願いしたい。 星野会長 ・アンケート結果に対しての見解も教えていただきたい。 清水 ・都市マスアンケート結果 P10 の分布図は、各評価項目において現在の満足度と今後の重要度を示している。図中の赤枠は「現状に満足しておらず、今後の重要度が高いと町民の方々が考えている」と捉えることができ、都市マスを考えるうえで大切な項目であると判断できる。 ・都市マスアンケート結果 P8 では、「清水町で将来問題になると思うこと」を質問しており、「6.商業施設の利用者が減少し、閉店や買い物サービスの低下が生じる」ことが72%と最も回答が多く、切実な問題となっている。都市マスはお店を直接誘致できるものではないが、土地利用を考えることでお店の誘致にもつながる。また、空き家・空き地が住宅街やまちなかにも多いので、それをどのように利活用するかがカギになると		

	<p>思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街では閉店している店舗が多く、マイナス要素かもしれないが、ほかのことに利活用していけると考えることもできる。
中河委員	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りには清水町に長く住みたいと思っている。お年寄りがずっと住み続けられるような施設や便利なものがあれば良い。
星野会長	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者マンションのようなものか。
中河委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような長く住めるものがあれば良い。
小笠原	<ul style="list-style-type: none"> ・都市マスの基本方針の中で、いまのご意見も参考にしていく。
澤山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都市マスアンケート結果 P8 の「6.商業施設の利用者が減少し、閉店や買い物サービスの低下が生じる」が多いことは深刻な問題と感じる。現在、清水町に大きなスーパーが 1 店舗しかないから、空き家・空き地を利活用すれば、買い物サービス施設問題と空き地・空き家問題の双方を同時に解決できる可能性がある。いちまる跡地などの空き地・空き家は、企業が所有しているから町の関与が難しいという問題点があるが、一般事業主が跡地を買い取るのは更に難しいから、都市マスの中で町が補助を計画・策定し、利活用を促すべき。その際、買い物サービス施設にこだわらず、テナントや子供の遊べる場所、カフェなどの複合施設などを検討しても良いと思う。 ・町の中心部の空き家は、高齢者施設に限らずコミュニティの場所として自由なお店を開ける環境を町が整えると良いと思う。町がお店を開きたい人を募集して補助を出すとすれば、やりたい人は必ずいると思う。町が補助をすると町民や町内の企業、清水町近郊の方々も町内で活動しやすい。
小笠原	<ul style="list-style-type: none"> ・いちまる跡地は日甜さんが所有しており、町として利活用のために日甜さんと協議しているとの話は聞いている。いちまる跡地を借りる場合、設備面の諸事情により建物全体を借りなければならないと言われている。どこかの企業が契約した話は聞いていないが、日甜と協力しながら動いている。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き家は、チャレンジショップや起業する際の補助金を出したり、スタートアップと称して次世代の事業に進める動きがある。商店街の店舗は住居を兼ねている建物も多く、閉店してもそこに住んでいる。その店舗部分だけをリニューアルできるか否かの課題もある。現在は以上のことを踏まえて補助制度などを作り、できるところから少しずつ進めている。
星野会長	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身もスタートアップ制度を利用して、昨年の 12 月に宿泊施設をオープンした。固定資産税が 3 年間免除などのメリットがある。私は商工会の役員を務めているが、スタートアップ制度の補助のことなどをもっと周知できればと思っている。
中河委員	<ul style="list-style-type: none"> ・点が線につながるような魅力あるまちになるのを願っている。
小笠原	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地とは直接関係ないかもしれないが、体育館がまちなかに建てられる。策定委員会でも体育館を清水町活性化の起爆剤にしてほしいとの意見がある。体育館を建てる場所を考えつつ、人の流れを活性化できるように、都市マスを考えていきたい。
澤山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの自由記述で、質問形式で答えてくださっている方へは、役場から回答はどう行うのか。
小笠原	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは取りまとめたばかりなので、意見に対する回答をすぐ役場としてお答えするのはできない。今後このアンケートを踏まえて、意見を集約し、町として考え方を整理する予定である。整理された考え方を公表するかは次回の審議会で提示したいと考えている。

<p>星野会長 清水</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルタントの方から付け加えはありませんか。 ・商店街はどこの町でも厳しい状況で、スーパーと商店街の関係性、住居と店舗の関係性など、諸々の要素が絡み合っている。その中で、商店街に住宅が建ってしまうと、30年近くは住宅で固定され店舗としての利用は困難となる。例えば「この区画は住宅ではなく、お客様が集まるような商業地区にしたい」となれば、都市計画は優れた手段であり、都市計画によって町の活性化を導くことができれば良いと思う。
<p>星野会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗になってもそのまま住んでいることが多いので、テナントで入ってもらうことも難しい。JAでも事業者を支援しているので解決できたらと思う。
<p>星野会長</p>	<p>4.閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかに意見が無いようなので本日の審議は終了します。大変貴重なご意見ありがとうございました。 <p>以上</p>